風景づくりの人づくり

沖縄県

沖縄県土木建築部　都市計画・モノレール課

令和７年３月

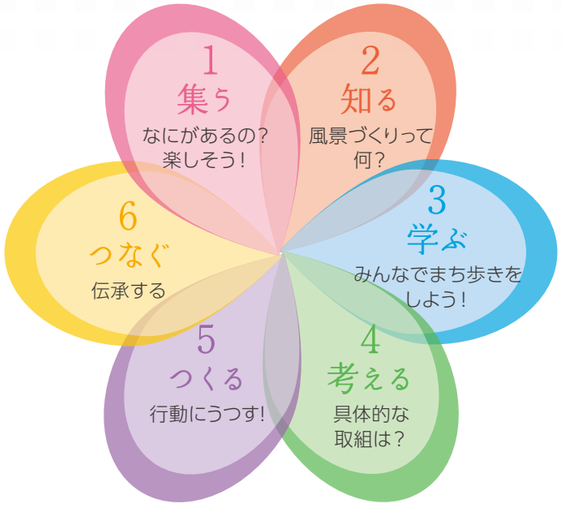
〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2　行政棟11階（南側・市役所より）

電話番号：098-866-2408　FAX：098-866-5938

令和６年度

沖縄らしい風景づくりに係る人材育成事業

風景づくりの人づくり



Ⅰ. 風景づくりサポーターの育成

地域住民等を対象にまち歩きや実地研修等を通し、景観形成の担い手となる人材を育成します。

Ⅱ. 地域景観リーダーの育成

各地地区リーダーの意識醸成とネットワークづくりや行政担当者との連携づくりをねらいとして研修会を実施します。

Ⅲ. 景観行政コーディネーターの育成

県内市町村等の景観行政担当者を対象に、景観に係る基礎的また実践的研修を実施します。

事業の背景
きっかけ

「沖縄らしい風景づくり」には、風景づくりに貢献できる人材が必要です。

豊かな自然環境と固有の歴史文化から形成されてきたかつての沖縄の風景は、「美しい」と評された首里の都に代表されるように豊かなまちなみが形成されていました。しかし、その美しい風景・まちなみは先の大戦により破壊され、終戦後は、無秩序な都市化が進みました。その結果、かつての沖縄らしい風景・まちなみが失われてしまいましたが、近年、沖縄らしい風景を取り戻し、沖縄の魅力や県民の質的豊かさの向上を求める声があがってきています。

魅力あふれる沖縄らしい風景づくりには、環境や景観に配慮したまちなみの整備とあわせて、個性豊かな風景づくりに貢献できる人材が必要となるため、沖縄らしい風景づくり促進事業の一環として、風景づくりに貢献する人材の育成をスタートしております。

令和６年度は、“美ら島沖縄”風景づくり先導地区として認定された「首里城周辺地区」「浦添グスク周辺地区」の２地区を対象として、風景づくりに貢献する人材の育成を実施しております。

事業の背景
もくてき

まずは「知ってもらうこと」から。「県民的なムーブメントの形成」が最終目的です。

沖縄県は平成24年に策定した「沖縄21世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）」において「沖縄らしい風景づくり」の施策展開を位置づけ、時間とともに価値が高まる地域づくり「価値創造のまちづくり」をテーマに、沖縄の特性にふさわしい良好な景観の形成を促進していく「沖縄らしい風景づくり促進事業」をすすめてきました。

令和４年５月には、「新・沖縄２１世紀ビジョン基本計画」を策定し、引き続き地域住民が主導的役割を担う風景づくりの推進体制の構築をすすめています。

STAGE 1・認知 Awareness	沖縄の風景づくりについて **知ってもらう**
STAGE 2・記憶 Memory	沖縄の風景づくりに **より関心をもってもらう**
STAGE 3・試用 Trial	沖縄の風景づくりに **参加意識をもってもらう**
STAGE 4・本格的使用 Usage	沖縄の風景づくりの **活動に実際に参加してもらう**
STAGE 5・ブランド固定 Loyalty	沖縄の風景づくりの **活動を県民的なムーブメントへ**

仲間と共に学び、つくる
おもい

「風景」は、人が守り、つくってゆくものです。

沖縄の風景づくりに係る人材育成の中、とりわけ風景づくりサポーターについては、小中高生から働き盛り世代、高い年齢層まで、幅広い年齢層に対する人材育成が重要です。そのため自治会組織に働きかけ、子ども会や婦人会、老人会などと連携し各年齢層の参加を呼びかけます。

継続的展開
つなぐ

「風景づくりに係る人材育成事業」には、未来へつなぐメッセージがあります。

風景づくりは長い期間を要する取組です。この取組を、次の世代につなぐ取組がこの「沖縄らしい風景づくりに係る人材育成事業」です。単に活動の結果として生まれる風景だけではなく、その過程で集い、知り、学び、考え、つくるそれぞれの意味を感じ次世代へ伝えていきます。

モデル的地区（先導　地区・促進地区）

風景づくりサポーター

- 自治会
  - ・青年会　・婦人会　・老人会
  - ・子ども会　・緑化部会　etc.
- 地域に居住する
  - ・専門知識を有する者
  - ・市町村職員等の公務員
  - etc.
- その他関係者
  - ・学生
  - ・大学等教員
  - ・建築士
  - etc.
- PTA
- 地域住民

地域景観リーダー

自治会組織

- ・自治会長　・老人会代表
- ・青年会代表　・専門知識を有する住民
- ・婦人会代表
- etc.

連携 ↔ **地方公共団体**
- ・沖縄県（全県的な景観施策の推進）
- ・市町村（景観行政コーディネーター）

専門分野での連携 ↕

専門分野での連携 ↔ **景観整備機構**
- ・沖縄県建築士会
- ・沖縄県造園建設業協会
- ・沖縄の風景を愛さする会

～モデル的地区の種類～

“美ら島沖縄”風景づくり先導地区：
本県の風景づくりのトップランナーとして他地区をけん引する地区

“美ら島沖縄”風景づくり促進地区：
現に良好な景観が形成または景観形成に向けた取組が予定されており、風景づくり先導地区への移行を促進する地区

モデル的地区とは

沖縄県特有の風土に根差したまちなみ景観や地域の人々の暮らしの景観など様々な魅力を有する地区を認定し、それらを守り・育てていくために官民一体の取組を支援することを目的としています。

モデル的地区に認定された地区は、その良好な景観が沖縄県共有の財産であることを認識し、それらの維持・向上に努めるとともに、沖縄らしい風景づくりのトップランナーとして良好な景観形成をけん引していく役割を担います。

これからの風景づくりのために

首里当蔵町自治会

地域の歴史的景観資源・拝所の天王寺井戸の修繕・修景

由緒ある天王寺井戸とリングムイの歴史を調査し、地域で景観管理の方法を検討しました。行事活動と並行して現場点検を行い、石垣修繕や石張りで排水改善に取り組みました。また、緑化修景作業にも協働で取り組み、素敵な地域の庭を作り上げることができました。

首里当蔵町自治会
天王寺井戸の石張･石垣修景作業の様子

首里当蔵町自治会
天王寺井戸修景後

首里儀保町自治会

地域の誇り、大切にしたいものを守り育てていくために

歴史講話や歴史散策の告知を地域全体に広げた結果、講話に約50人、歴史散策に15人が参加し、地域の関心の高さが確認できました。自治会員中心でしたが、非会員や若い世代の参加もあり、今後の活動の広がりが期待されます。

首里儀保町自治会
ワークショップ発表の様子

首里儀保町自治会
まち歩きの様子（西森）

首里三ヶ城南校区まちづくり協議会

眺望の素晴らしい首里崎山公園雨乞御嶽前広場の桜・植樹活動

城南小学校と連携することで、小学校６年生が授業の一環で参加し、植樹及び施肥を卒業記念とすることができました。そのことによって、城南小学校の教職員の皆さん、地域の企業の皆さんが参加する植樹となりました。

首里三ヶ城南校区まちづくり協議会
児童や地域の方が参加した式典の様子

首里三ヶ城南校区まちづくり協議会
児童による植樹の様子

浦添前田地区

新たに発掘された浦添グスク城壁と石畳道ライトアップ活動

浦添グスクの聖域性と暮らしの風景に配慮し、イベント時間や内容を工夫することで、城壁ライトアップへの集客を成功させました。アートイベントやオータムフェスタも同時開催され、地域の協力が見られました。これにより、多くの市民が浦添グスクを訪れ、歴史や風景の魅力を広めることができました。

浦添前田地区
城壁ライトアップのための足場とライトの設置

浦添前田地区
城壁と石畳のライトアップ

城西小学校区まちづくり協議会

芭蕉紙で作ろう、卒業証書

児童と保護者が共に芭蕉紙の歴史を学び、紙漉き工程を体験することで、首里への愛着や誇りが深まりました。琉大や芸大の協力により活動が円滑に進み、継続の可能性も広がりました。また、首里がかつて芭蕉の緑に溢れていたことを再認識し、地域の連帯感も高まりました。

城西小学校区まちづくり協議会
琉大仲間先生より糸芭蕉の伐採方法を学ぶ

城西小学校区まちづくり協議会
児童が実演する紙漉きの様子

風景づくりサポーターの育成プログラムの進め方

①地区別情報交換会（事業説明会）
活動内容等の振り返り/新たな課題等の意見交換

②実地研修の企画検討
活動テーマ、研修内容、スケジュールの検討

③地区景観学習・点検整理（講習会・まち歩き・ワークショップ）

④実地研修（催し等含む）の実施
風景・景観まちづくり活動として広く住民への参加を呼びかけ

⑤各地区のまとめ
各地区の活動をとりまとめリーダーによる活動報告会へつなげる

⑥各地区へのアンケート調査の実施・とりまとめ
意欲向上、関心度、評価等の把握

❶ 首里当蔵町自治会の取組

～地域の歴史的景観資源・拝所の天王寺井戸の修繕・修景～

《地区の概要》

●当蔵町は首里台地の中心地に位置し、首里城、円覚寺、弁財天堂など数々の寺院や御殿屋敷が点在し、琉球王朝時代に王都として栄えたまちです。

●古井戸・拝所(御嶽）や石垣、宿道など生活文化的資源も多く残っており、自治会が中心になって昔ながらの御願行事や伝統行事、旗頭等取組が今日まで継承されています。

●かつて、当蔵大通りと呼称された龍潭通りは、その沿線地区が都市景観形成地域（平成14年）に指定され、首里城下の生活景と歴史的景観まちづくりを推進する重要なエリアとなっています。

天王寺井戸の位置図（航空写真、Google）

《「天王寺井戸」の歴史と地域との関わり》

●天王寺創建時はこの寺域に井戸がなかったため、この井戸（図中）を使ったのが始まりであり、井戸は蓮小堀（リングムイ）とする人工池に接していました。

●当蔵村の「村ガー」として地域の生活用水にも利用されてきたことから、毎年旧暦９月９日「重陽の節句」には地域住民の健康、家内安全と繁栄の祈願が行われています。

●平成27年度沖縄県沖縄らしい風景づくり人材育成事業で取水ポンプの設置と井戸周りの石張整備が取組まれたが、数年前にポンプが破損し、水やり・清掃活動に支障をきたしていました。

天王寺跡・井戸・蓮小堀跡の位置（首里古地図部分図、公文書館）CC BY 4.0

《今回の取組の概要》

令和6年	8月下旬～9月中旬	事業説明･趣旨の確認、活動方向意見交換
	9月21日～10月26日	天王寺井戸現場確認（取水ポンプの現状、修繕箇所等の確認）、清掃活動、取水ポンプの修繕、現場点検（石垣崩壊状況、排水、植栽状況）、拝み
	11月中旬～12月上旬	改善計画案及び植栽の検討･意見交換、役員会で天王寺井戸の修景案を共有
	12月22日	天王寺井戸の園地及び石垣の草刈、石張り･バラス敷作業、清掃
令和7年	12月下旬～1月上旬	植栽計画の詳細検討･意見交換
	1月25日	緑化修景作業
	2月上旬	手摺設置検討、現場調整作業確認

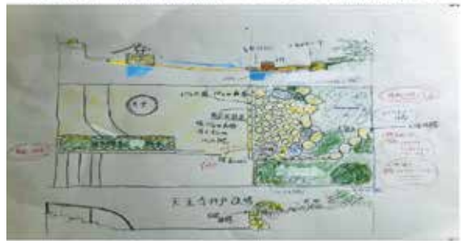
天王寺井戸（重陽の節句時）

ワークショップ等の活動

取水ポンプ状態の確認

現場点検

改善案の検討
「天王寺井戸」修繕・修景イメージ:リングムイ「雨庭」計画


改善計画イメージ

実地研修の内容

石垣の蔦剥がし・雑草伐採の様子

整地作業の様子

バラス敷作業の様子

専門家指導のもと石張り作業を実施

専門家指導のもと植込み作業を実施

作業終了後の記念写真

天王寺井戸の修繕・修景前

天王寺井戸の修繕・修景後

今回の実地研修を通して

●天王寺井戸やリングムイの歴史を調べ、居心地の良い空間として、どう景観管理すべきかなどを地域で検討することができました。

●石垣補修や石張作業、緑化修景作業など一連の工程を通して、専門家から風景づくりの技術手法を学ぶ機会となったと同時に、住民が協働して素敵な地域の庭を仕上げることができました。

●子ども達が井戸ポンプを押している姿や、観光客が興味をもって井戸を訪ねる光景が見られるようになりました。

●今後、天王寺井戸の歴史や思いを伝える冊子づくりやまち歩き等を通して、子ども達に地域の良さや人の優しさ、この土地の記憶を伝えていきます。

●地域の役割分担のもとに維持管理活動が楽しく取組まれ、さらに隣接する龍潭通りの沿道景観向上や、公民館広場周りの修景活動へと広がるよう波及効果を期待したいです。

❷ 首里儀保町自治会の取組

～地域の誇り、大切にしたいものを守り育てていくために～

《地区の概要》

●首里儀保町は、琉球王国時代の政治、経済、文化の中核を担った地域で、首里城から北方へ延びる２本の宿道（上道（イーミチ）と下道（シムミチ））が町内を走り、人々の往来や首里文化の伝達に重要な役割を果たしてきました。

●地域内には見晴らしの良い地点が点在し、井戸・拝所をはじめ様々な歴史的資源がみられます。

●首里儀保町自治会の活動として、敬老の日に“ガンジュー祝い”と称して、80歳以上の自治会会員の自宅に祝いの品（ソーメン、昆布、削り節等）を届けています。その他、ウマーチ御願、重陽の節句、ニシムイ御嶽周辺等の美化清掃活動を年2回行っています。

首里古地図（西森）　出典：沖縄県立図書館所蔵　CC BY 4.0

拝所

玉城朝薫生誕地の碑

宝口樋川

《今回の取組の概要》

令和6年	8月9日	自治会班長会への事業概要説明、活動内容の意見交換
	12月13日	活動内容の決定（歴史講座とワークショップ）
令和7年	1月11日	首里儀保町歴史講座とワークショップの開催、2月にまち歩きをすることが決定
	2月11日	まち歩き（歴史散策）

歴史講座告知チラシ

ワークショップ等の活動

歴史講座の様子

グループに分かれての意見交換の様子

グループごとに話しあった内容を発表している様子

実地研修の内容

美術村跡(戦後画家達が多く居住していた)

西森御嶽内での様子

亀川盛武生家跡前で解説に耳を傾ける参加者

与那原良矩生家跡前で解説に耳を傾ける参加者

儀保川(ジーブガー)

加良川（カラガー）

今回の実地研修を通して

●今年度実施した歴史講話、歴史散策（まち歩き）の告知及び申し込みを自治会会員だけでなく、首里儀保町にお住まいの世帯に広く呼び掛けたところ、講話に約50人の方が参加、ワークショップにも幅広い年代の方が参加、歴史散策にも15人の方が参加し、地域への関心の高さがうかがえました。

●両日とも自治会会員を中心とした参加者でしたが、自治会に加入していない方や若い世代の方の参加がみられ、取組みたい活動については様々な意見が寄せられたこと等から、今後、首里儀保町での活動の広がりに期待できます。

●自治会会員のみならず、自治会会員以外への継続的な参加の呼びかけや、班長会やワークショップでの意見を踏まえた参加したくなる、参加しやすい活動の企画・運営が求められます。

●このような活動を継続することで、自治会に加入していない方の自治会加入の促進につなげていく必要があります。

❸城西小学校区まちづくり協議会の取組

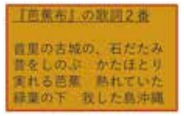
～芭蕉紙で作ろう、卒業証書～

《地区の概要》

- 学校周辺は、守礼門や園比屋武御嶽石門、玉陵・世界遺産の重要な史跡が集中し王府時代には、王族や士族をはじめ地方按司らが大きな屋敷を構えていたエリアです。
- 学校区地域は、首里台地の南北・西斜面の地形上に緑濃い閑静な住宅地を形成し「歴史の風薫るまち」として知られています。小学校校舎も城下の屋敷(赤瓦)風景をイメージし歴史公園と一体的景観整備が取り組まれてきました。
- 学校区地域の「首里金城地区（平成6年重点地区指定）」、「龍潭通り沿線地区（平成14年重点地区指定）」では城下の歴史的景観まちづくりが進展しており、今後の景観重点地区の拡充を見据えて協議会を窓口に那覇市と地域との調整が進められています。
- 協議会は、こうした景観特性の学校区地域を対象に地域課題の解決や地域住民の信頼関係の構築を目的として設立され、具体的活動は4部会（歴史文化部会、地域見守り部会、地域交流部会、環境整備部会）の地域会議を通して取り組まれています。
- 歴史文化部会では、児童の首里伝統文化と風景への愛着育成に向けて「芭蕉紙づくり（卒業証書作成）」活動支援に取り組んでいます。

【活動背景／目的】城西小学校区まちづくり協議会「芭蕉づくり」

今も残る首里金城町斜面の芭蕉の風景



歌にもあるように
首里（沖縄）は芭蕉の緑で
溢れていた

守礼門・綾門大道

城西小学校（守礼門側）

協議会・地域会議の様子

《今回の取組の概要》

令和6年	7月16日、22日	事業説明・趣旨の確認、活動方向意見交換、歴史文化会の芭蕉紙活動を実施することが決定
	8月中旬	活動の具体的検討・意見交換
	9月上旬～11月下旬	紙漉きの枠づくり、芭蕉紙づくり工程の体験WS、糸芭蕉伐採作業
	11月15日、29日	紙漉き授業の実施（城西小学校６年生、教諭、保護者）
	12月上旬～中旬	芭蕉紙活動の振返り、協議会(地域会議)で事業報告

実地研修の内容

芸大生の協力のもと芸大農地から
糸芭蕉を伐採

歴史文化部部員による紙漉きの枠づくり

琉大教育学部仲間先生より芭蕉紙づくり（細断）
の指導を受ける

実地研修の内容

芭蕉紙づくり(紙漉き工法)の説明を真剣に聞く城西小学校６年生

紙漉き作業

漉いた紙をベニヤ板への張付け作業

漉いた紙を張付けたベニヤ板を木陰の下や広場で乾燥させる

今回の実地研修を通して

- 児童と保護者が一緒になって芭蕉紙の歴史学習に取組、紙漉き工程を体験し実際に芭蕉紙をつくりあげることができたことで、地元首里への愛着や誇りが増したとともに、また、サポートに関わった人たちも学校や首里地域との連帯感が高まりました。
- 今後も芭蕉紙の卒業証書づくりが学校伝統行事として継続していけるよう、地域や大学等連携協力の体制づくりが重要です。
- さらに首里の伝統文化への理解を深め主体性を育成していくためにも、全行程への児童の参加が期待されます。
- 芭蕉布の歌詞にあるような緑にあふれる首里の風景を取り戻していくためにも、小学校芭蕉園（敷地）づくりをはじめ地域においても活動目的を共有し芭蕉の植込み活動を展開していくことが望まれます。

芭蕉紙で作った卒業証書

❹ 首里三ヶ城南校区まちづくり協議会の取組

～眺望の素晴らしい首里崎山公園雨乞御嶽前広場の桜・植樹活動～

《地区の概要》

●首里三箇とは、崎山・赤田・鳥堀の三町を指す名称です。17世紀から18世紀にかけて、泡盛造りは首里三箇と呼ばれる地域内に限定されていました。この地域は湧き水が豊富で、水田も近かったため、醸造と蒸留に適していました。

●城南小学校区では、平成５年（1993 年）６月、首里三ヶ青少年健全育成会（略称：三青会）が発足し、「地域の青少年は地域で守り育てよう」を合言葉に、毎月の防犯パトロール、自治会間の情報共有等に努めてきました。

首里城からみた首里三箇地区の戦前の様子
出典：那覇市歴史博物館提供

●その後、令和元年6月、三青会を発展的継承した首里三ヶ城南校区まちづくり協議会を設置し、これまでの三青会活動に加え、校区内の課題解決、子ども達の健全な育成を図る活動を展開しています。

●崎山公園雨乞嶽前の広場は、城南小や首里カトリック教会及び幼稚園の近くにあります。雨乞嶽では大旱魃時に神女を従えた国王自らによる雨乞いの儀礼が行なわれていました。眺望の素晴しさでも知られ、首里八景にも詠まれています。

●崎山雨乞御嶽広場は、約20年前に地域住民からの要望により整備され、その際に三青会や地元自治会が桜を植樹しました。その桜が成長し今では開花時に美しい景色を見せています。

●開花時に地域の方が公園に立ち寄り、花見を楽しめる憩いの場となり、さらに首里城からの眺めも楽しめるように桜の植樹に取り組みました。

首里古地図に描かれている雨乞御嶽
CC BY 4.0

首里崎山公園の雨乞御嶽広場に隣接する展望台からの眺め

《今回の取組の概要》

令和6年	8月24日	活動のアイデア出し
	9月19日	協議会役員への事業説明、活動内容の意見交換、活動内容の決定
	12月20日	首里崎山公園への桜の植樹（城南小学校6年生、吹奏楽部、地域企業）

協議会役員との意見交換の様子

実地研修の内容

多くの関係者が参加して開催された式典の様子。奥には復元再建中の首里城が確認できる

町田会長のあいさつ

城南小学校６年生による植樹の様子

植樹式の横断幕

活動後の集合写真

今回の実地研修を通して

●城南小学校と連携することで、小学校6年生が授業の一環で参加し、植樹及び施肥を卒業記念とすることができました。

●そのことによって、城南小学校の教職員の皆さん、地域の企業の皆さんが参加する植樹となりました。

●植樹が平日の実施となったことや告知が遅れたことによって、地域にお住まいの方の参加が少なかったことが課題です。

●また、植樹した桜や雨乞御嶽前広場に植栽されている樹木の管理が課題です。

●植樹の準備等やさくらピクニックの際に、地域の多くの方が関われるような仕組みづくりが期待されます。

❺浦添前田地区の取組

～新たに発掘された浦添グスク城壁と石畳道ライトアップ活動～

《地区の概要》

●市の東側、浦添グスク丘陵南面に広がる旧集落地域であり、盆地状を呈し要所に井戸や水路、「ジリチン毛」等拝所が残っており、新暦8月に前田棒術と綱引きが演じられています。

●浦添グスクの東端にそびえ立つ巨岩「ワカリジー」は、市内で最も高くランドマークとなっており、岩下には英祖王の子「伊祖の子・イソノシー」を祀った拝所とされ、ワカリジーを信仰の対象として仰ぐ地区です。

●浦添都市軸の一端を担う県道浦添西原線沿線地区は景観地区に指定され、グスクの麓にふさわしい歴史的景観まちづくりを推進するため浦添前田駅周辺地区や前田北地区などを景観地区や重点地区等に追加指定する準備を進めています。

●集落の成り立ちや伝統行事、ワカリジーの保全継承等、昔ながらの地域の良さを活かした前田らしい風景づくりについて、自治会青年会・OBが中心になり小学校と連携し風景学習活動等展開しています。

●当該人材育成事業により、令和2年度及び令和4年度はワカリジー、令和5年度は石畳と継続してライトアップ活動に取り組んでいます。

前田小学校からグスク・ワカリジー、前田駅方面を望む

ジリチン毛から見たモノレール・浦添前田駅一帯の眺望

《地区の特徴》

●ワカリジーは沖縄戦では米軍に「ニードルロック（針のような岩）」と名付けられ、2017年ハリウッド映画「ハクソー・リッジ」の公開後、沖縄戦最大の日米軍の激戦地であった前田高地一帯への訪問客が増えています。

●モノレール車窓、また小学校南方には、14世紀古琉球時代の中山王の居城であった浦添グスク丘陵とシンボル・ワカリジーが緑のパノラマ景として広がっています。

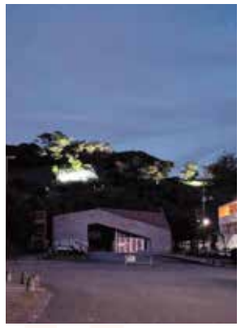
地域周知用チラシ

《今回の取組の概要》

令和6年	7月下旬～10月中旬	事業説明・意見交換、他団体との調整、市文化財課との調整・連携、現場確認、活動計画検討
	10月26日	ライトアップの試験点灯(グスク石積)
	11月3日	城壁付近への足場設置作業、ライトセッティング、浦添グスク城壁・石畳等ライトアップ本番
	11月4日	足場撤去、ペットボトルライトの片付け、終わりの拝み

ワークショップ等の活動

第1回リーダー研修会で今年度の活動方向を報告



数箇所から見え方の試験点検・事前調整に取組む

ペットボトルフットライトの準備

実施直前の拝み

実地研修の内容

■連携協力のもと同時開催したイベントの様子

同時開催イベントのチラシ

グスクアート散歩
(11 :00-17:00開催)

オータムフェスタ
(15 :00-20 :00開催)

■浦添グスク発掘城壁と石畳道における風景づくりライトアップ活動(11/3,18:00-20:00)

発掘城壁での足場ライトの設置とライティング調整

ペットボトルライト設置と城壁に続く石畳ライトアップの様子

前田駅交差点より眺望

前田小学校より眺望

今回の実地研修を通して

●グスクのライトアップとあわせて、市内アート関連団体によるアートイベントや、市観光協会によるオータムフェスタが同時開催されたこと、仲間地区の演舞参加など周辺地域自治会がイベントメニューで協働したことなど、前田地区が風景づくりとして取組んできたライトアップ活動の波及効果として連携協力の広がりが見られました。

●浦添グスクの聖域性と暮らしの風景に配慮してイベント開催時間をずらし、プログラムメニューを工夫することで、夜間開催の城壁ライトアップ集客も上手く運び、浦添の歴史への関心やグスク風景の魅力をPRできました。

●今年度の取組みを礎にして、浦添グスクの歴史性や景観資源を重要視し、早い段階で関係機関及び多様な団体間における目的の共有や活動調整、役割分担を行い、全体として浦添グスクの魅力を発揮する市民イベントの開催に取組んでいく必要があります。

●前田らしい良好な風景・景観づくりに向けて、地区の伝統や生活文化、多彩な人材を活かし無理なく持続的に取組む活動も期待されています。

沖縄らしい風景づくりや景観形成に向けて、“美ら島沖縄”風景づくり先導地区である「首里城周辺地区」「浦添グスク周辺地区」を対象に、那覇市（首里当蔵町自治会、首里儀保町自治会、城西小学校区まちづくり協議会、首里三ヶ城南校区まちづくり協議会）、浦添市前田地区の個性や課題、可能性に対する気づきを促し、地域景観リーダーの活動の場づくりや目標づくりに向けて知見を広げるなど意識醸成を図るとともに、各地区のリーダーとのネットワークづくりや行政担当者との連携づくりをねらいとして、全4回（全体講習会2回、促進地区視察1回、景観技術講座・技能研修1回）の研修会を実施しました。

第１回研修会（全体講習会）

実施日/令和6年8月24日（土）

■ 13：30～15：40

《 場所 》 首里公民館（ホール）

《 内容 》

沖縄県より「風景づくり先導地区」に関する説明、また那覇市・浦添市の景観行政から景観まちづくりに関する補足説明を受けたあと、地域リーダーとの意見交換、ワークショップを通して、各地区の活動の方向性について検討しました。

景観行政担当者による講義

地区の活動方向性等のワークショップ

景観リーダーによるワークショップ発表

第２回研修会（促進地区視察）

実施日/令和６年10月5日（土）

■ 9：40～11：40

《 視察先 》 壺屋地区・やちむん通り(那覇市)

《 内容 》

過年度事業対象箇所（壺屋地区）の取組成果や今昔のやちむん風景が共存するまちなみ等の視察を壺屋地区の景観リーダーと一緒に行い、参考になる点など意見交換を行いました。

那覇市担当者による壺屋都市景観
形成の概要説明

壺屋地区景観リーダーによる取組紹介
(修景プランター制作・設置活動)

壺屋地区景観リーダーによる取組紹介
(壺屋灯りの道づくり)

壺屋やちむん通り会会長との交流

壺屋地区景観リーダーによる取組紹介
(井戸修繕、緑化)

壺屋地区景観リーダーによる取組紹介
(壁面緑化、フェンス設置と植込)

第３回研修会（景観技術講座・技能研修）

実施日/令和6年11月30日（土）

■ 9：20～11：40

《 場所 》 首里公民館（視聴覚室、公民館外庭）

《 内容 》

亜熱帯性気候のもと、沖縄らしさを感じさせる重要な景観要素となっている“植物”に着目し、地域特性を生かした緑の風景づくりにむけた景観技術への学びの一歩として、街路樹や敷地内植栽の景観管理技術「植栽剪定」に関する講座と実習に取り組みました。

講師の説明を受ける様子

参加者からの質問に対して、ポンチ絵で
わかりやすく説明

講師による剪定方法の実演

講師による剪定方法の説明

植物の特性にあった剪定方法の説明

講師指導の下、剪定の実習

第４回研修会（全体講習会）

実施日/令和7年1月18日（土）

■ 13：30～16：00

《 場所 》首里公民館（展示室）

《 内容 》

各地域の景観リーダーによる活動報告を行うとともに、グループワークショップにおいて活動を振返り、成果と課題等を再確認した上で今後の展開や展望について話し合いました。

景観リーダーによる活動報告

活動の振返り、今後の展開や展望に
ついてのワークショップ

景観リーダーによるワークショップ発表

景観施策の実施主体となるのは主に市町村です。市町村の景観施策促進をはかるため、県内市町村の景観行政担当者を対象に、景観の実務に関する知識及び技術の向上を図ることを目的として、景観行政コーディネーター研修会（講習会２回、県外視察１回）を実施しました。

基礎的研修

基礎的研修は、県行政担当者（景観評価システム対象事業担当者）、県内市町村景観行政担当者を対象に、県内外講師による景観に係る基礎的講習を行い、景観に関する知識向上を図りました。

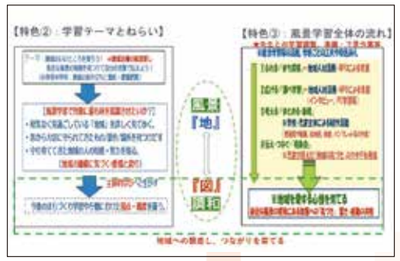
◉R6年度景観行政研修会プログラム【基礎編／行政担当者（半日×3回）】

日	会場	時間	講義タイトル	講義等の概要	担当講師
1日目 9月12日（木）	八汐荘 屋良ホール（B）	9:30 ～9:35	ガイダンス	研修の主旨とプログラムの案内	事務局
		9:40 ～11:00	景観概論	景観の考え方や実践のあり方について概観する	琉球大学教授 波多野　想
		11:05 ～11:50	沖縄県の景観施策の取り組み	沖縄らしい風景づくり支援事業の取り組み、県景観評価システムの概要	沖縄県都市計画・モノレール課景観形成班
		14:00 ～17:00	色彩計画とワークショップ	色彩景観計画の基本的な考え方や色彩を活かした景観まちづくりの事例等に学び、ワークショップを通して景観色彩基準の策定と運用について考える	田邉 学（株式会社カラープランニングセンター）
2日目 9月13日（金）	県立博物館・美術館（博物館講座室）	13:00 ～13:05	ガイダンス	プログラムの案内	事務局
		13:05 ～13:45	景観教育について	沖縄県における風景学習の実績（H30年度都市景観大賞）と景観教育のあり方について	安里 直美（沖縄の風景を愛さする会）
		13:50 ～14:30	土木景観	公共土木施設と景観形成のありかについて、そのモデル事例と方策	古波蔵 健（沖縄の風景を愛さする会）
		14:35 ～15:20	建築景観	県景観評価システムの事例紹介	比嘉裕隆（株式会社泉設計設計室長）
		15:25 ～15:55	街路樹景観	沖縄の街路樹を含めた街路景観のあり方と、その管理システム（DX）、モデル事例の紹介を行う	比嘉 謙太（沖縄県造園建設業協会 事務局長）
		16:05 ～17:15	意見交換（WS）	基礎編の総括意見交換による課題把握	事務局

講義の様子

沖縄県の景観評価システムの取組

色彩計画フィールドワークの様子


風景学習の取組

沖縄県の沿道景観取組の概要

色彩計画ワークショップの様子

実践的研修

実践的研修は、県行政担当者（景観評価システム対象事業担当者）、県内市町村景観行政担当者を対象に、県内外講師による景観に係る実践的講習を行い、景観の実務に関する知識及び技術の向上を図りました。

◉R6年度景観行政研修会プログラム【実践編／行政担当者（半日×3回）】

日	会場	時間	講義タイトル	講義等の概要	担当講師
1日目 9月25日（水）	八汐荘 屋良ホール（B）	9:30 ～9:35	ガイダンス	研修の主旨とプログラムの案内	事務局
		9:40 ～10:20	石垣市景観まちづくり	県内自治体における景観地区の実践事例を紹介、概説し、そこでの工夫を学ぶ	石垣市建設部 都市建設課計画係
		10:25 ～11:05	読谷村景観まちづくり	県内自治体における景観まちづくりの実践事例を紹介、概説し、そこでの工夫を学ぶ	読谷村建設整備部 都市計画課都市計画係
		11:10 ～11:50	北中城村の歴史まちづくりの取組	県内自治体における歴史まちづくりの取組事例を紹介、概説し、そこでの工夫を学ぶ	北中城村教育委員会 生涯学習課文化振興係
	浦添市 仲間 自治会館	14:00 ～17:00	浦添市における景観まちづくり実践例※現場研修	風景・景観まちづくりの実践例を現地で体験研修する（仲間地区・前田地区の景観まちづくりの実践と成果）	浦添市美らまち推進課 仲間自治会
2日目 9月26日（木）	八汐荘 屋良ホール（B）	12:35 ～12:40	ガイダンス	プログラムの案内	事務局
		12:40 ～13:30	「杜の都」の風土を育む仙台市の景観形成の取組み	県外事例視察先の自治体職員を講師とした事前学習。「杜の都」の風土を育み、魅力を高める仙台の景観まちづくりの実践事例、その工夫を学ぶ	仙台市都市整備局 計画部都市景観課 板垣祐太
		13:40 ～14:30	「小江戸」川越市の歴史・景観まちづくり	県外事例視察先の自治体職員を講師とした事前学習。川越市の景観形成及び歴史まちづくりの実践事例と工夫を学ぶ	川越市都市計画部 都市計画課 池田麗子
		14:40 ～15:25	景観誘導と屋外広告物	那覇市、その他における景観誘導の取り組みと屋外広告物のあり方について学ぶ	有限会社エーツーサイン/沖縄県広告美術協同組合理事/沖縄県屋外広告士会会長 山藤浩二
		15:35 ～17:15	意見交換（WS）	研修会全体の総括意見交換による課題把握	事務局

講義の様子

石垣市景観地区における取組

県外講師（川越市職員）とのワークショップの様子

「小江戸」川越市の歴史・景観まちづくりの取組

浦添市仲間地区の取り組み視察

「杜の都」の風土を育む仙台市の景観形成の取組

県外先進地事例研修

県内市町村景観行政担当者を対象に景観地区の指定及び運用、また景観協議会設立に関する先進地について現地研修を行い、景観行政担当者の風景づくりに係るスキルの向上を図りました。

宮城県仙台市

●実 施 日／令和6年11月6日(水)7日(木)
●研修内容

仙台市の担当者から、仙台市の景観まちづくりの取組について説明を受けたあと、仙台城跡からの眺望や定禅寺通り、荒浜地区を視察しました。都市内部における段階的な変化に伴う高さ制限や、緩和高さの条件として求められる緑地や公共的空間の確保、景観地区や地区計画、広告物モデル地区、誘導指針、景観まちづくり協議会の取組について、具体的な説明を受けました。また、荒浜地区では、震災で失われた海岸のみどりを市民と協働で再生するプロジェクト、防災集団移転跡地の利活用、震災遺構について説明を受け、防災・環境と景観まちづくりの関係について学ぶ貴重な機会となりました。

仙台城跡からの眺望(都市部)

定禅寺通のケヤキ並木と歩行者専用通路

外壁の素材はケヤキ並木と調和するものを使用

管理者が異なる道路付属物を街路灯に集約

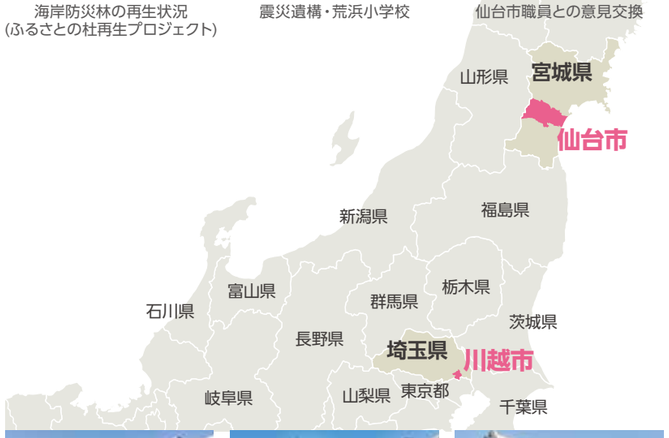
広告モデル地区のシンプルな広告物

エリアマネジメント広告(街路灯を活用した広告幕)

海岸防災林の再生状況(ふるさとの杜再生プロジェクト)

震災遺構・荒浜小学校

仙台市職員との意見交換



埼玉県川越市

●実 施 日／令和6年11月8日(金)
●研修内容

川越市の担当者の案内で、川越十ヵ町地区を中心に、都市景観形成地域(重伝建地区を含む)及び歴史的風致維持向上地区重点地区を視察しました。古い町並みが残る十ヵ町地区では、景観を守るためのルールや事前協議組織「川越町並み委員会」の設置、江戸時代の町割り・蔵造りといった伝統的な建築様式について説明を受けました。また、補助制度を活用した建物の改修・新築の事例や、電線地中化の取組についても学びました。歴史的風致の維持向上のため、文化財保護法や景観法などの制度を活用し歴史的景観整備に取り組むと共に、「NPO法人川越蔵の会」や住民、事業者、行政が協働することで、多くの観光客が訪れる人気のスポットとなり、地域の活性化にも成功しています。

川越一番街商店街(伝統的建造物群保存地区)

川越市のランドマーク「時の鐘」

「小江戸」川越の街並みに調和するコーヒー店

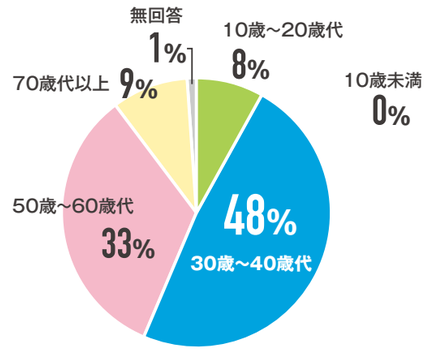
大正浪漫通りに残る住宅(景観重要建造物)

文化創造インキュベーション施設(文化財の保存と活用)

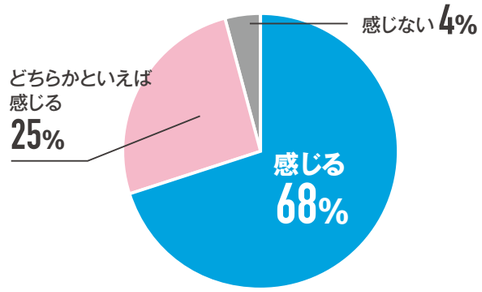
川越市職員との意見交換

5地区で風景づくりサポーター活動の参加者に対してアンケート調査を実施し、85名の方から回答がありました。その一部を紹介します。

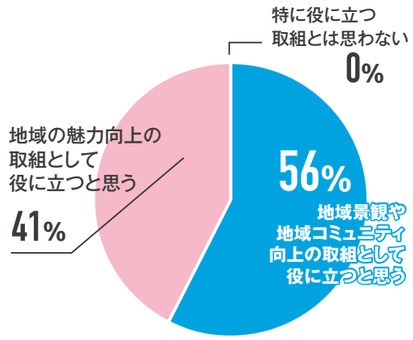
あなたの年齢について教えてください。



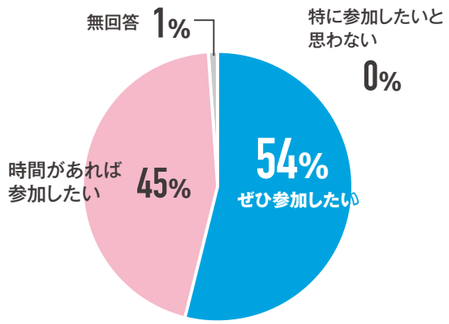
あなたの地区は「沖縄らしい独特で魅力のある風景(地域)」だと感じますか?



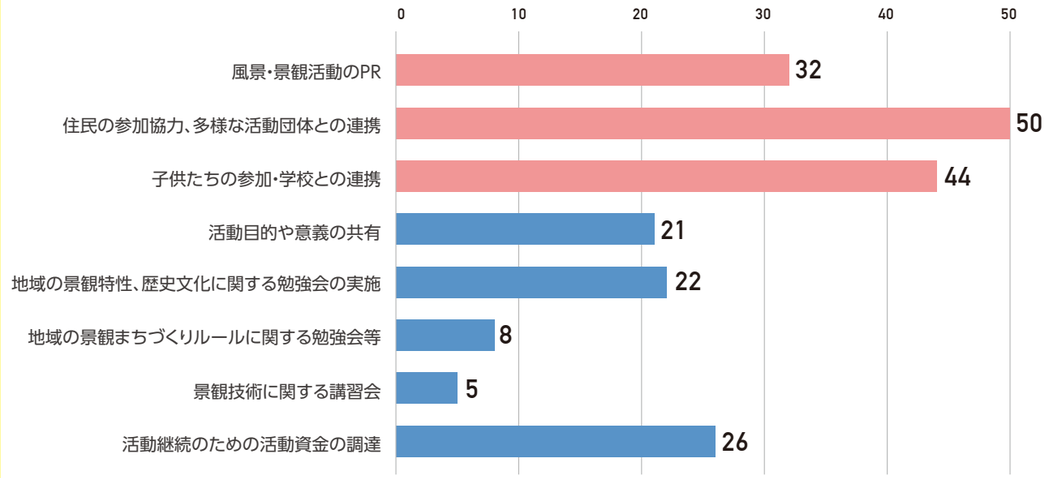
風景づくりサポーター活動の取組について、あなたの考えを教えてください。



あなたは今後もこのような取組みに参加・協力したいと思いますか?



今後、風景づくり活動を発展・継続させる上で、何が重要(課題)となってきますか? (※最大3つまで選択)



風景づくり活動を発展・継続させる上で重要(課題)なこととして、「住民の参加協力、多様な活動団体との連携」「子供たちの参加・学校との連携」「風景・景観活動のPR」などがありました。

沖縄県風景・景観づくりのポータルサイト

「風景結々」は沖縄県が運営する風景・景観づくりのポータルサイトです。風景・景観づくりの基本的な考え方から実際に活かすまでをわかりやすくコンテンツ化しております。また「沖縄風景アーカイブ」では沖縄のさまざまな風景写真を楽しくみることができます。「風景結々」では景観行政や沖縄県の風景・景観づくりの取組及び風景・景観づくりに関する協議会の活動について、より効果的な情報発信を図っていきます。

「風景結々」トップ画面

ふうけいゆいゆい

風景結々

web https://www.fukei-okinawa.jp/

スマートフォントップ画面